

事業群評価調書(令和4年度実施)

基本戦略名	1-3 長崎県の未来を創る子ども、郷土を愛する人を育てる	事業群主管所属・課(室)長名	教育庁 義務教育課	加藤 盛彦
施策名	2 郷土を愛し、地域を支える心豊かな人材の育成	事業群関係課(室)	高校教育課、生涯学習課	
事業群名	① ふるさと教育の推進	令和3年度事業費(千円)	※下記「2. 令和3年度取組実績」の事業費(R3実績)の合計額	10,847
	④ 子どもたちが直接自然と触れ合う体験活動の推進			202

1. 計画等概要

<p>(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文)</p> <p>①我が国と郷土に誇りを持ち、明るく活力のある地域社会の実現を目指し、我が国と郷土の歴史や伝統文化等についての理解を深め、地域の実態に目を向けた学習活動を通して、社会に参画する力や地域の課題解決に主体的に関わる資質・能力を具えた、地域を支える人材を育みます。</p> <p>④ボランティア活動や自然体験活動、集団宿泊活動など、通常の学校生活では得られない様々な体験によって、子どもたちの見聞を広め、自然や文化に親しむことを通して、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、よりよい人間関係を形成する力や公共の精神の育成を目指します。</p>	<p>(取組項目)</p> <p>i) 我が国や郷土の伝統・文化、自然環境に関する学習の充実(事業群①)</p> <p>ii) 教科や総合的な学習・探究の時間等において主体的に郷土で学ぶ教育の推進(事業群①)</p> <p>iii) 地域ぐるみで展開するふるさと教育の推進(事業群①)</p> <p>iv) 県立高校でふるさと教育の実施計画と体系図を作成し、主体的・持続的な実施体制を確立(事業群①)</p> <p>v) 自治体、大学、産業界等とのコンソーシアム^{※1}を構築し、地域課題の解決等の探究学習^{※2}を県立高校で実施(事業群①)</p> <p>vi) 「しま」の将来について考えるプログラム等を通じたふるさとの未来を創ろうとする意欲の醸成(事業群①)</p> <p>vii) 世界遺産を活かしたふるさと教育の促進(事業群①)</p> <p>viii) 学校と連携した体験活動プログラムの作成による活動内容の充実と機会の提供(事業群④)</p> <p>ix) 県立青少年施設でいじめや防災等社会的課題に対応した体験活動の機会の提供(事業群④)</p> <p>※1 コンソーシアム: 複数の個人や組織が共通の目的のために活動する集団</p> <p>※2 探究学習: 問題解決的な活動(課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現)が発展的に繰り返されていく一連の学習活動</p>
---	--

事業群	指標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	①地域の発展や地域的課題の解決に向けて児童生徒が探究的な学習を行っている学校数(小・中学校)	目標値①	基準年	40校	80校	120校	160校	200校	200校(R7)	
	実績値②	8校(R2)	97校						進捗状況	
	達成率②/①		242%						順調	
④自然体験活動に取組んでいる小・中学校の割合	目標値①	基準年	100%	100%	100%	100%	100%	100%(R7)		
	実績値②	86.5%(R元)	91.1%							進捗状況
	達成率②/①		91%							やや遅れ

2. 令和3年度取組実績(令和4年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	事業費(単位:千円)			事業概要 令和3年度事業の実施状況 (令和4年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)			令和3年度事業の成果等	
				R2実績	うち 一般財源	人件費 (参考)		主な指標	R2目標	R2実績		達成率
				R3実績					R3目標	R3実績		
				R4計画	R4目標	R4実績						
事業実施の根拠法令等				事業実施の根拠法令等								
事業期間				法令による 事業実施の 義務付け	県の裁量 の余地が ない事業	他の評価 対象事業 (公共、研究等)	事業対象					
所管課(室)名												
取組項目 i v	○	1	長崎発 未来の創り手 育成プラン	3,089	1,413	10,171	「地域魅力化型高等学校支援事業」では地域と学校の協働によるコンソーシアムを構築し、「ふるさと教育支援事業」では進学希望者が多い普通科高校4校で県内企業説明会を行った。 また、令和3年度新規「ながさき未来デザインSDGs推進事業」の「長崎を元気にするアイデアコンテスト」では20校が活動、研究発表を行った。 さらに、「高校生アントレプレナーシップゼミ」では21名が7グループで活動を行い、起業家や行政関係者の支援を受けながらビジネスアイデアを構築し、発表会を実施した。	【活動指標】	—	—	—	●事業の成果 ・地元の行政機関や事業所などと連携し、地域活性化に向けた取り組みを行ったことで、多くの生徒達が、将来ふるさとの発展に貢献したいという意識が高まった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・各機関との連携の実績ができたことで、今後の連携がスムーズに行われ、また、参加校の教諭の指導スキルの向上も見込まれる。このことで、今後の他の取組への広がりや深まりが期待でき、社会に参画する力や課題解決に主体的に関わる資質・能力の育成につながっている。
				3,605	684	10,127		20	20	100%		
				8,707	3,691	10,753		20				
			H30-R5			【成果指標】		—	—	—		
高校教育課	—	—	—	高校生	アイデアコンテスト参加校において、地域課題を解決し、将来、ふるさとの発展に貢献したいという意識が高まった生徒の割合(%)	85	100	117%	90			
取組項目 i vi	○	2	しまの「ミライ」応援事業	811	525	7,042	離島に住む小学生を対象に、地域活性化に取り組む先駆者の講話や企業等での体験活動、参加者同士の意見交換等を行った。新型コロナウイルス感染拡大による参加自粛の影響もあったが、対馬市、壱岐市、五島市、小値賀町、新上五島町から計21名の児童が参加し、実施した。	【活動指標】	40	13	32%	●事業の成果 ・講話や体験活動、意見交換会等を実施したことにより、「しま」をはじめとする「ふるさと長崎県」を担っていく意欲が高まり、離島地域でのリーダー育成につながった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・事業を通して、地域の発展や地域的課題の解決に向けた児童の意識向上とともに、地域を支える人材の育成につながっている。
				687	380	7,011		40	21	52%		
				1,128	602	7,681		40				
			R2-4	離島振興法第1条				【成果指標】	90	100	111%	
生涯学習課	○	—	—	対馬市、壱岐市、五島市、小値賀町、新上五島町に住む小学5・6年生	将来、島に貢献したいと思う割合(%)	90	100	111%	90			
取組項目 ii	○	3	郷土学習資料作成事業	3,730	3,730	2,347	令和4年度版郷土学習資料「ふるさと長崎県」を作成し、県内各中学校や図書館、関係機関等に配付した。主な改訂内容として、長崎県立長崎図書館郷土資料センターや対馬博物館の紹介や『しま』は長崎県の宝!!シリーズ5～小値賀町～等を新規に掲載したほか、全編にわたり統計資料の更新、数値の修正や文字の追記等を行った。	【活動指標】	14,100	14,100	100%	●事業の成果 ・学校での活用率は100%であり、社会科や総合的な学習の時間等での調べ学習の資料、長期休業中の課題等、各学校で幅広く活用されることにより、子供たちの、郷土長崎への理解と愛情が深まった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・社会科や総合的な学習の時間等で調べ学習の資料として、各学校が工夫し広く活用することで、地域的課題の解決に向けた探究的な学びに寄与した。
				3,675	3,675	2,337		R2.3:作成配付部数(冊)	13,800	13,800	100%	
				324	324	2,307		R4-:作成数(回)	1			
			H16-			【成果指標】		100	81.5	81%		
義務教育課	—	—	—	公立中学校1年生及び特別支援学校中学部1年生	R2.3:郷土長崎への理解と愛情のある児童生徒の割合(小・中学校)(%)	90	90.6	100%	100			
					R4-:資料を活用した学校の割合(中学校)(%)	100						

取組項目 iii	○	4	ふるさとと新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業	2,880	1,518	7,790	9市町11中学校を拠点校として指定し、学校と行政機関、市町まちづくり担当部局、地元企業等が協働しながら、地域の課題解決を目指し、地域の活性化につながる探究的な学習プログラムを開発し実践した。	【活動指標】	9	11	122%	●事業の成果 ・公開授業は11校すべての指定中学校が実施した。いずれの学校でも生徒・教員ともに地域の魅力や課題を見だし、解決を目指す探究的な学習プログラムの開発と実践に取り組んだ。 ●事業群の目標達成への寄与 ・学校と行政機関、市町まちづくり担当部局や地元企業等、地域ぐるみで学習プログラムの開発と実践に取り組んだ結果、生徒が地域社会の一員としての自覚をもって学習に取り組むことができた。	
				3,269	1,798	7,681		【成果指標】	9				
			R3-4			—			地域の発展や地域的課題の解決に向けて探究的な学習を行っている学校数(校)	40	97		242%
			義務教育課	—	—	—		公立中学校の教員・生徒	80				
取組項目 viii	○	5	「しま」体験活動支援事業費	53	53	1,565	令和3年度は、県内の小・中学校や県立中学校の児童生徒759人が本事業により体験活動を実施した。また、「しま」の魅力を広く伝えるため、実施校から聞き取った活動内容をまとめ、各学校に情報提供を行った。	【活動指標】	3	3	100%	●事業の成果 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、県外の修学旅行を県内に振替えたことから、令和2年度に比べて2倍以上の学校が「しま」を訪れた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・事後アンケートでもしまの魅力を感じたという意見が多く見られ、目標達成に向けて一定の寄与はできたものと捉えている。	
				202	202	1,558		各市町教育委員会に対する説明(回)	3	3	100%		
				561	561	1,536		【成果指標】	95以上	92.1	96%		
			H23-			—		島をもう一度訪れたいと思った参加者(%)	95以上	96.6	101%		
			義務教育課	—	—	—	小・中学生	95以上					

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i	我が国や郷土の伝統・文化、自然環境に関する学習の充実	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>地域と連携した探究活動や、地域の歴史や文化の理解、伝統芸能の継承等を行う活動が継続的な取り組みになっていない学校が散見されたことから、すべての県立高校でふるさと教育の実施計画と体系図を作成し、公表した。今年度より実施計画に基づいた実践を行っていくことで、学校としての取組を体系化し、実のあるものにしていく必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>体系図を学校のホームページで、実施計画を学校要覧に掲載し、実施計画が毎年確実に検証・見直しが行われるようにするとともに、他校の取組状況について把握することを可能にし、学校を超えた情報共有を促す。</p>
ii	教科や総合的な学習・探究の時間等において主体的に郷土で学ぶ教育の推進	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>郷土学習資料「ふるさと長崎県」の活用状況は100%であり、社会科や総合的な学習の時間における調べ学習、長期休業中の課題等、主体的な学びに活用できる学習資料として、生徒の郷土に対する理解と愛情を深める役割を果たすことができた。今後は、地域の課題や解決の方法等についても目を向け、考え、実践するといった教科横断的な学習活動を充実させる必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>地域のよさを調べるだけでなく、地域を担う人材としてその現状や課題を見だし、解決方法を考える等、主体的・探究的な学習に対応した学習資料の作成を目指す。</p>
iii	地域ぐるみで展開するふるさと教育の推進	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>研究指定の市町については、ふるさとを支える人材を育成するため、学校、教育委員会、市町まちづくり担当課等との連携・協働体制の構築に取り組んだ。今後も、それぞれが主体となって連携・協働ができる体制づくりが必要である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>ふるさとと新たな魅力創出会議において、関係者に対し理解を促すとともに、学校、教育委員会、市町まちづくり課と協働でふるさと教育の推進を図る体制づくりを構築する。</p>
iv	県立高校でふるさと教育の実施計画と体系図を作成し、主体的・持続的な実施体制を確立	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>「ふるさとと未来を担う高校生育成事業」、「ながさき未来デザインSDGs推進事業」により、高校生の地域課題に対する関心や探究スキルは向上している。また、令和3年度までにすべての県立高校でふるさと教育の体系図と実施計画を策定した。一方で小中学校のふるさと教育から一歩進んだ課題発見・解決能力の育成、生徒自らが創り上げる探究学習への転換に課題がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>「ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業」により、SDGsの視点から地域の課題を発見・解決し、主体的に行動することのできる地域リーダーの育成及び長崎の未来をデザインする起業家精神を持つ人材の育成と、教員の指導力向上を目指す。</p>

v	自治体、大学、産業界等とのコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究学習を県立高校で実施	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>「地域魅力化型高等学校支援事業」により松浦高校において、地域と学校の協働によるコンソーシアムを構築し、地域課題解決に係るカリキュラム開発を行った。一部ではコンソーシアム関係者を中心に生徒の探究活動の「実践」に係る部分での支援が見られた。令和4年度の事業最終年度に向けて、これまでの実績をもとにさらなる実践的な支援が求められる。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>コンソーシアムの機能を充実させるとともに取組の実績をまとめて、松浦高校の研究から実践までの取組モデルを、県内の各校に発信し広げていく。</p>
vi	「しま」の将来について考えるプログラム等を通じたふるさとの未来を創ろうとする意欲の醸成	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>令和3年度は、島原市・南島原市を中心とする島原半島地区を活動の場所として講話、体験活動、意見交換等を行い、参加者は「しま」や長崎県の魅力を再発見した。「将来、島に貢献したいと思う割合」が100%となるなど、将来の離島地域のリーダー育成につながる取組となった。 事業効果を高める研修プログラムの改善及び、新型コロナウイルス感染症の影響下においても参加者を確保し、対策を講じながら安全・安心に実施することが課題である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>参加児童・保護者へのアンケート結果を基に研修プログラムの改善を図る。また、新型コロナウイルス感染拡大防止については、予算面も含め対策を講じるとともに、人口減少や若者流出が著しい「しま」の子どもたちが、地域活性化を進める取組を学ぶことができる絶好のチャンスと捉え、地域・ふるさとの現状を把握すること、将来を語り合うことの意義を関係市町に示しながら、参加者の確保に努めていく。</p>
vii	世界遺産を活かしたふるさと教育の促進	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>郷土学習資料「ふるさと長崎県」の県内世界遺産の概要について紹介した記事や離島を取りあげた特集ページに、島内に位置する構成資産を詳しく紹介する記事を掲載した。記事を活用した実践を広げていくことが課題である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>調べ学習に対応した郷土学習資料となるよう、掲載している記事を整理、統合することで、子供たちにとって、調べやすく分かりやすい紙面構成とする。また、教科横断的にふるさと教育が展開されるよう、各種研修会や学校訪問等において本資料の活用を指導していく。</p>
viii	学校と連携した体験活動プログラムの作成による活動内容の充実と機会の提供	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>県立青少年教育施設においては、多様な子どもが在籍する学校の実態に応じた、よりよいプログラム改善に取り組み、今後も学校と連携していくことが必要である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>宿泊学習などの体験活動後、学校に対して活動の検証としてアンケート調査を実施し、学校のニーズや課題を把握して、プログラムの改善や活動内容の充実を図る。県立青少年教育施設が、学校との連携を深めていけるよう支援していく。</p>
ix	県立青少年施設でいじめや防災等社会的課題に対応した体験活動の機会の提供	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>県立青少年教育施設における3つの体験プログラム(相手の個性を認め、友だちのよさを再発見するプログラム)について、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施できなかった。今後は開発したプログラムを実践し、その効果を検証することが必要である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>生涯学習課と県立青少年教育施設協議会が連携を図り、プログラムの実践に努める。</p>

4. 令和4年度見直し内容及び令和5年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名 事業期間 所管課(室)名	令和4年度事業の実施にあたり見直した内容 ※令和4年度の新たな取組は「R4新規」等と、見直しがない場合は「—」と記載	令和5年度事業の実施に向けた方向性		
					事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目 iv v	○	1	長崎発 未来の創り手育成プラン H30-R5 高校教育課	「高校生アントレプレナーシップゼミ」では、起業家を中心とした新規ビジネスプランの提案だけでなく、提案されたビジネスプランの実装に向けて企業や行政機関等と連携しながら取組を深化させていく。	②	「長崎を元気にするアイデアコンテスト」や「高校生アントレプレナーシップゼミ」では、令和3年度、4年度の研究成果を県立高校全校に共有するとともに、未参加の学校の参加を促して地域課題解決型探究の手法や成果を広げていく。	改善
取組項目 vi	○	2	しまの「ミライ」応援事業 R2-4 生涯学習課	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症への対策を行いながら県南地域を活動の場として実施するが、訪問先については、長崎県の変化を感じられる施設や地域活性化に寄与している企業などを踏まえて選定する。また、関係市町教育委員会と連携した事業成果の広報等にも努める。	③	令和5年度以降についても、離島地域のリーダー育成を図る事業の必要性は高く、継続した取組を進めていく。これまでの「しまの『ミライ』応援事業」について、分析・検証を行い、新規事業構築に繋げていく。	終了

取組項目 ii	○	3	郷土学習資料作成事業	令和4年度からは紙媒体による配付ではなく、電子媒体による配付とし、一人一台端末の活用に対応した郷土学習資料として活用場面や内容の充実を図る。	②	子供たちの郷土長崎に対する理解と愛情を深めるため、本学習資料の果たす役割は大きい。今後も、引き続き掲載内容の充実を図るとともに、本学習資料の継続的で広範な活用を促し、子どもたちの郷土長崎に対する愛情と理解を深めていく。	改善
			H16-				
			義務教育課				
取組項目 iii	○	4	ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業	令和4年度は、各指定校が「ふるさとキャリア教育」の研究拠点校として、他校に対してその実践を周知・発信することで、県下に普及させることを重点取組事項としている。	⑩	令和4年度で事業終了。	終了
			R3-4				
			義務教育課				
取組項目 viii	○	5	「しま」体験活動支援事業費	「しま」の豊かな自然や文化等のよさを実感できるような活動を充実させるために、市町との関係課との連携を図る。また、毎年発行している「しま」への修学旅行に関するリーフレットに、「しま」での体験活動例や参加者の声など、参考になるような情報を精選して掲載する。	②	引き続き、「しま」体験活動支援事業についての周知を継続していく。	改善
			H23-				
			義務教育課				

注:「2. 令和3年度取組実績」に記載している事業のうち、令和3年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点